

再評価結果（平成21年度事業中止箇所）

担当課：道路局 国道・防災課
担当課長名：深澤 淳志

| | | | | | |
|---|-------------------------------|--------------------------|--------|--|------------------|
| 事業名 | 一般国道11号 丹原道路 | 事業区分 | 一般国道 | 事業主体 | 国土交通省 四国地方整備局 |
| 起終点 | 自：愛媛県西条市丹原町湯谷口 至：愛媛県東温市河之内 | 延長 | 5.4 km | | |
| 事業概要 | | | | | |
| 一般国道11号は、徳島市を起点とし、四国の北部を瀬戸内海沿いに徳島県、香川県及び愛媛県の主要都市を経て松山市に至る全長約230kmの重要な幹線道路で、産業・経済を支える大動脈であり、日常生活に欠かせない生活道路としての役割も持つ重要な路線である。丹原道路は、事前通行規制区間の解消や道路線形改良を行い、信頼性の高い道路ネットワークを確保し地域間の交流・連携を支援するものである。 | | | | | |
| H11年度事業化 | | 都市計画決定 | | 用地未着手 | |
| 全体事業費 | | 約149億円 | | 事業進捗率 | |
| 計画交通量 | | - | | 台/日 | |
| 費用対効果分析結果 | B/C | 総費用 | | 総便益 | |
| | (事業全体) - | (残事業)/(事業全体) -/-億円 | | (残事業)/(事業全体) -/-億円 | |
| | (残事業) - | 事業費：-/-億円 維持管理費：-/-億円 | | 走行時間短縮便益：-/-億円 走行経費減少便益：-/-億円 交通事故減少便益：-/-億円 | |
| 感度分析の結果 | | | | | |
| 残事業について感度分析を実施 | | | | | |
| 交通量変動： B/C= - (交通量+10%) B/C= - (交通量-10%) | | | | | |
| 事業費変動： B/C= - (事業費+10%) B/C= - (事業費-10%) | | | | | |
| 事業期間変動： B/C= - (事業期間+10%) B/C= - (事業期間-10%) | | | | | |
| 事業の効果等 | | | | | |
| ・国土・地域ネットワークの構築（日常活動圏の中心都市へのアクセス向上が見込まれる） ・災害への備え（現道等の事前通行規制区間を解消する） 他13項目に該当 | | | | | |
| 関係する地方公共団体等の意見 | | | | | |
| 当該区間が通行止めになっても四国縦貫自動車道路に並行しており、国道196号や317号などの代替路線も確保されていることから、中止はやむをえない。 | | | | | |
| 事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 | | | | | |
| 平成14年度愛媛県公共事業再評価委員会において、中山川ダム事業の休止が決定 | | | | | |
| 事業の進捗状況、残事業の内容等 | | | | | |
| ルート検討に必要な地形解析、現地踏査等を実施した。その結果、事業区間内の地すべり地の規模が想定よりも大きいことが判明した。現在は、地すべり地の安定度評価のための動態観測を実施中で、今後、ルート・工法等を見直す予定である。 | | | | | |
| 事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 | | | | | |
| 現地の地すべり動態観測等に時間を要し、その結果によってはルート・工法などの大幅な見直しの可能性がある。このため、現時点では事業期間および事業費は不明確である。 | | | | | |
| 施設の構造や工法の変更等 | | | | | |
| 対応方針 | | | | | |
| 事業中止 | | | | | |
| 対応方針決定の理由 | | | | | |
| 地すべり地の動態観測等に時間を要し、ルート等の大幅な見直しの可能性があること及び、地方公共団体等の意見を総合的に判断し決定した。 | | | | | |
| 事業概要図 | | | | | |
| | | | | | |

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。